



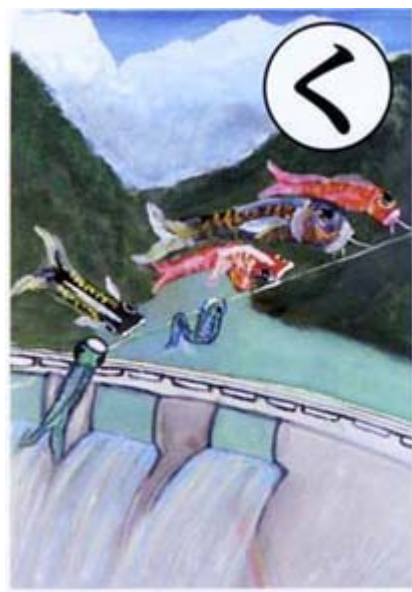
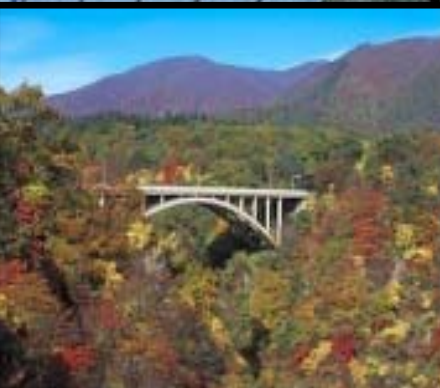
鳴子ダム水源地域ビジョン

第1回専門検討会資料

平成17年7月29日（金）



資料 - 4 交流と連携に係る資料



鳴子ダム

鯉のぼり舞う

薰風くんぼうに



日本人の手によって出来た国内最初のアーチ式ダム。昭和三十二年の完成以来、洪水の心配は全くなかった。観光スポットとしてもすばらしい。上流には『荒雄湖畔公園』が整備され、様々なイベントで賑にぎわっている。



「薰風くんぼうに
鯉のぼり舞う 鳴子ダム」

情報発信の一元化	交流と連携に係る方策
<p>各ホームページのリンク</p> <p>ポータルサイトの運営(事例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗駒・最上・平泉 ・あおもり案内名人 ・いわて北緯40度エリア広域観光ガイド ・パーフェクトあいづ <p>コンシェルジェの運営(事例)</p>	<p>§ 1 地域づくりと活動組織(大分県安心院町GT)</p> <p>§ 2 地域づくりと交流(大分県安心院町GT)</p> <p>§ 3 地域活動の連携(山形県金山町)</p> <p>§ 4 まちづくり(山形県金山町)</p> <p>§ 5 地域づくりと経営(京都府美山町)</p> <p>§ 6 地域づくりの推進(岐阜県)</p> <p>§ 7 支援策や補助事業(農林水産省)</p> <p>§ 8 交流と連携のあり方の検討(国土交通省資料)</p>

【鳴子町内のホームページ設置】

(主要組織)

鳴子町

鳴子町観光協会

鳴子町商工会

町立鳴子温泉病院

鳴子漁業協同組合

鬼首温泉ブルワリー

リゾートパークオニコウハ

鳴子温泉旅館組合

東鳴子温泉観光協会

中山平温泉観光協会

鬼首温泉旅館組合

なるこファンルーム

鳴子町中山間地域活性化
推進協議会

鳴子ダム



関連リンク集

● 鳴子関連のお役立ちリンク

鳴子温泉旅館組合	東鳴子温泉観光協会	中山平温泉観光協会
鬼首温泉旅館組合	鳴子町	鳴子漁業協同組合
鳴子ツーリズム	鳴子町商工会	町立鳴子温泉病院
なるこファンルーム		

● その他のリンク

宮城県観光連盟	岩出山町役場	岩出山町・感覚ミュージアム
横浜人形の家	じゃらんほっこり温泉案内所	全日空「空遊自遊」
旅バス・日本三景交通	百全	鳴子のフォトギャラリー(ゆたたり館)
「ろまん街道 登米園」	宮城伝統こたえ	みやぎ伝統的工業品ネットワーク
紀州鉄道	女川町観光協会	国道 栗駒・轟上・平泉

● アクセス関係リンク

JR東日本	東北自動車道
仙台空港	



鳴子観光・旅館案内センター(場所:鳴子温泉駅内)
【営業時間:8時30分～18時00分】

1. 情報発信の一元化 ポータルサイトの運営(事例)

ポータルサイトの運営

事例 栗駒・最上・平泉

地域ポータルサイトMTK運営協議会
各県、民間、観光協会、商工会、交通機関
(宮城県、秋田県、岩手県、山形県)
・観る・学ぶ ・遊ぶ・楽しむ
・体験する・参加する
・買う ・食べる・飲む
・泊まる ・くつろぐ



事例 あおもり案内名人

青森観光コンベンション協会
・ガイドマップ ・見どころ ・泊まる
・イベント ・レジャー ・食べる
・交通アクセス ・七子八珍 ・観光手形



事例 いわて北緯40度エリア

広域観光ガイド

いわて北緯40度広域観光推進実行委員会
(安代町、松尾村、西根町、岩手町、葛巻町、
玉山村)
・エリアマップ
・観光自慢
・お土産自慢
・おすすめ観光コース



事例 パーフェクトあいづ

あいづふるさと市町村圏協議会
(会津若松市、喜多方市ほか27市町村)
・イベント情報
・観光ガイド
・建物ガイド
・食ガイド
・いいものガイド
・会津五街道を訪ねて



1. 情報発信の一元化 コンシェルジェの運営(事例)

ポータルサイトの運営

事例 Q州マイ-コンシェルジェ(九州)

事例 @たみコンシェルジェ(熱海)

事例 関西コンシェルジェ(大阪・京都・神戸)

事例 さっぽろのコンシェルジェ(札幌)

事例 瀬戸内海夢街道

(小豆島・豊島・直島・高松)コンシェルジェ

事例 まつりだ！高松コンシェルジェ

事例 新居浜コンシェルジェ

NPO法人

マイタウン・ コンシェルジェ 協議会

- コンシェルジェとは
- 法人概要・会員種別
- 活動記録
- 団体Q&A

- 各種問合せ
- 入会申込み

■ 会員専用
パスワードが必要です

NPO法人
マイタウン・コンシェルジェ協議会
info@mytownconierge.com

コンシェルジェとは

■ コンシェルジェとは

「コンシェルジェ」とは、仏語で「案内人」のことで「コンシェルジュ」ともいいます。ホテルなどにおける「お客様のどんな要望にもお答えする満足提供サービス係」の意味でも使われています。最近ではデパートなど多くのところでみかけるようになりましたので、なじみができたのではないかとおもいます。

私たちにとって、コンシェルジェとは、「地域の観光や文化、体験やアクティビティなどに詳しく、地域の観光情報や地域の魅力を大いに味わっていただくための生の情報を、それぞれの知識や経験、個性を生かしてホームページ上で発信していただき、ホームページを見た人からの掲示板やメールでのお問い合わせにお答えいただく観光ボランティア」のことです。言葉でいうと難しいですが、下記のサイトでみていただくとなんとなくわかっていただけるのではないかとおもいます。

現在、コンシェルジェは、九州、熱海、関西(大阪・京都・神戸)、札幌、田舎など合計8サイトで合計約50名います。今後も増えていく予定です。学生、会社員、子育て中のママ、地域サークルのリーダーやメンバー、シニアの方、在日外国人の方々など、男女、各世代、いろいろな国の方たちが参加し、グルメ情報、歴史について、イベント・お祭り情報、お土産情報、アクセス、バリエーション情報、癒しのスポット、季節の風景などの様々な情報を発信しています。

■ コンシェルジェサイトについて

NPO法人マイタウン・コンシェルジェ協議会は以下の7つのサイトの支援をしております。詳しくは、こちらをご覧ください。(2009年12月現在)

 Q州マイ-コンシェルジェ	Q州マイ-コンシェルジェ(九州)
 @たみコンシェルジェ	@たみコンシェルジェ(熱海)
 関西コンシェルジェ	関西コンシェルジェ(大阪・京都・神戸)
 さっぽろのコンシェルジェ	さっぽろのコンシェルジェ(札幌)
 瀬戸内海夢街道	瀬戸内海夢街道(小豆島・豊島・直島・高松)コンシェルジェ
 まつりだ！高松コンシェルジェ	まつりだ！高松コンシェルジェ
 新居浜コンシェルジェ	新居浜コンシェルジェ

2. 交流と連携に係る方策〔§1地域づくりと活動組織(大分県安心院町GT)〕

「安心院町におけるグリーンツーリズムの理念」

グリーンツーリズムとは、地域に生きる一人一人が農村での日頃の生活を楽しく送る中で、外からのお客を温かく迎え入れることのできる《豊かに輝く農村》を目指した、新しい農村経営を求める運動である。

グリーンツーリズムとは、都市(消費者)と農村(生産者)のこびることのない心の通った対等な交流を通じ、「知縁(情報で結ばれた親類)関係」となり、共生の道を探すものである。

グリーンツーリズムとは、村における連帯意識を生活を通し景観から産業まで一体的とりくみを職業的かつ年代的垣根を越えた連携を図る中に行うことにより、地域経済の発展と町全体の活性化を目指すものである。

グリーンツーリズムとは、閉ざされた農村社会の過去のイメージを払拭し、農村婦人の地位と意識の向上ならびに自立を図り、男女共同にして成り立つ「ムラづくり」と魅力的家族関係を作る運動である。

グリーンツーリズムの根付いた農村には、恵みに豊かな自然環境が大切に守られていて、その中で生きる人々の自身に満ちた笑顔がある。それを求め、心のせんたくのために足繁く訪れる旅人により町の品位は高まり、経済も潤すことができるものである。

グリーンツーリズムの普及により町が息づけば、次世代を担う子供たちに明るい夢を与え、誇りを持つことができる。

経緯及び概要

(旧)安心院町の位置 : 現 大分県宇佐市



2. 交流と連携に係る方策〔§1地域づくりと活動組織(大分県安心院町GT)〕

安心院町GT研究会の理念に基づきステップアップするための
 具体的取組と方針(2004～2006年度)

NPO法人取得後安心院町グリーンツーリズム研究会専属の事務局員をおき年中無休のグリーンステーションを設置し、あらゆる情報の発信や収集をおこない、グリーンツーリズムの産業としての確立に努める。

専門部活動の充実とそれを基にしたグリーンツーリズム実践大学の設立を目標にする。

現在いる親愛なる国内応援団員数240名を当面3～4年以内に500名位までを目標として増員をしていこう。(平成15年度末現在の総会員数430名)

修学旅行の対応を安定的にしてゆく為農泊部応援団(竹組)の仲間づくりをしよう、簡易宿所の認可の手続きをしてもらっていこう。尚、周りの市町村との連携も計っていこう。

九州グリーンツーリズムシンポジウムの開催と近年中に九州グリーンツーリズム研究会の設立を想定していこう。いつの日か「グリーンツーリズムは九州へ」と九州はひとつになっていこう。

新宇佐市にとり海と山は一体になった。交流や親睦を深めお互いが喜び合える仲間になっていこう。

県下18市町村で結成されている大分グリーンツーリズム研究会に積極的に参加して親睦とグリーンツーリズムの質の向上を目指して行こう。そして県下五つの目標をもとに心をひとつにした平成14年4月27日の想いを忘れずにいよう。

バカンス法(長期休暇法)が出てこそ日本では本格的にグリーンツーリズムのスタートになる。事あるたびに声を上げていこう。大分県下のグリーンツーリズムの中間、そして安心院グリーンツーリズム研究会のメンバーは特にこの任を背負っている事を忘れないでいて欲しい。

広報部	<ul style="list-style-type: none"> 研究会会報「心のせんたく」の発行(年に数回) 年間活動報告書「心のせんたく」の作成 インターネットによる情報発信 広報部の定例会の実施
企画開発部	<ul style="list-style-type: none"> 全国藁こずみ大会andフィナーレ祭の開催 祇園坊講演会、ふるさと探訪の開催 ドイツ語講座の実施 町内ガイド研修の実施
アグリ部	<ul style="list-style-type: none"> 安心院農業体験「マイ米物語」の計画・実施(年間を通じた体験) GW農村体験「行きつけの農家をつくらう」の計画・実施
環境美化部	<ul style="list-style-type: none"> 日本一きれいな町づくり運動の推進 リバーサイドウォークの計画実施
農泊部	<ul style="list-style-type: none"> 伝承料理の研修や地産地消の加工料理の研究 県、国内外への農泊の現地研修 修学旅行受け入れ家庭の仲間づくり 食品衛生・料理等の研修
応援団部	<ul style="list-style-type: none"> 定例会、イベント、ヨーロッパ研修等に無理なく参加し楽しむ 定例会資料、会報「心のせんたく」等の配布や情報発信に努める 応援団の仲間づくりや連携を密にする 町内応援団と国内応援団があり、町内応援団長は大分銀行安心院支店長が務める(副応援団長は役場商工課交課長)
積み立てヨーロッパ研修事務局	<ul style="list-style-type: none"> 月々4,000円を5年単位で集め、本場ヨーロッパ研修に行く

2. 交流と連携に係る方策〔§2地域づくりと交流(大分県安心院町GT)〕

会員制農村民泊の実施

現在、常時14軒の農家で受入が可能であるが、イベント時には農家以外の家庭を含め40軒で受け入れる協力体制ができている。受入れは会員制で、受入農家にてメンバーズカードを発行し、会員登録を行うしくみになっている。年々農泊体験者が増加し、平成8年度の約100人から平成14年度には2,500人にまで増加し、日帰りによる農業・農村体験者も着実に増えている。

リバーサイドウォークの実施

平成9年から川歩きを通じて農村の景観、水、自然、環境の大切さをみんなで考え行動する活動をしている。

全国藁(わら)こずみ大会の実施

平成11年から、かつて農村の冬の風物詩であった藁こずみの技を後世に伝え、美しさやアイデアを競うことをモチーフとして実施しており、資源活用による農村景観の見直しを通じて、農業のあり方や農村の良さを都市住民と一緒に考えようとするイベントを開催している。

グリーン・ツーリズム体験学習の受け入れ

県内外の大学、高校、中学校をはじめ学習塾等の生徒を農村農泊体験として受け入れ、農業と農村の大切さを教育している。

以上の外にも随時開催される専門部等により、常に会員の声を組み上げながら、農村安心院の発展を念頭においた活動に心がけており、それぞれの活動が町内外から高い評価を受けている。



2. 交流と連携に係る方策〔§3 地域活動の連携(山形県金山町)〕

あなたは自然ふれ合いたい派？ 手作りしたい派？ それとも町の歴史派？

金山まるごと体験メニューいろいろ。プログラムはあなた次第。

「金山28人衆」が待っています。



達人栗田夫妻が迎えてくれる。
築200年の母屋も必見。
紅花染め・杉染
メーブルサップ作りを体験。



山から採ってきたツル等、
金山ならではの素材を使って、
「カゴ細工」や「木工細工」
作りを体験。



さしこ・藁・スゲ細工で
民芸品にチャレンジ。
もり遊び・冬の山遊びなど
自然体験もあり。



達人と山に入って山菜採り。
田んぼや畑で農作業。
瓶詰加工・かえでの樹液で
メーブルサップ作りを体験。



四季の学校

廃校の山の分校がステージ。
そば打ち・餅つき・草木染め
まゆ花教室・銀山探検など。
年4回の体験宿泊有。



21,000坪に点在する牧場・
ナチュラルガーデン・倶楽部
ハウス等。木のオブジェ
フォトスタンド作りを体験。



日曜大工、炭焼き体験。
オリジナルの
陶芸作りも加わって
職人気分が味わえるかも。



昔ながらの蔵で体験する
田舎暮らし、パッチワーク・
リース・巻細工・簗工芸など。
Bed&Breakfast方式で宿泊。



英国王立園芸協会公認
ハンギングマスターの指導で、
寄せ植・ハンギングバスケット
などを作ります。



イワナのくんせいを作る。
すごくおいしい。
すごく楽しい。
アウトドアクッキングを体験。



渓流釣りの達人から学ぶ
入門コースと本格コース。
金山の清流を体感できるのも
魅力のひとつ。



金山町を一望できる地図です。
体験コース間の距離や時間が
わかるアクセスタイトマップ、
金山町への交通あんない
もあります。

2. 交流と連携に係る方策〔 § 3 地域活動の連携(山形県金山町) 〕

1. 暮らし考房	2. やまと工房	3. 生活資料館 (九兵衛)	4. 片桐農園	5. 四季の学校	6. カムロファーム 倶楽部
紅花染め(11～3月) 藍染(7月～10月) 杉染(11月～6月) もり遊び(5月～10月) 森作り体験(5月～10月) かえでの樹液でメープル サップ作り(3月)	ツル細工(通年) 金山杉の木工(通年)	さしこ(通年) 藁・スゲ細工(通年) 川遊び(7月～8月) 冬の山遊び(12～3月)	山菜採りと瓶詰加工(5～ 11月) 農業体験(6～9月) かえでの樹液でメープル サップ作り(3月)	そば打ち体験(通年) まゆ花教室(通年) 草木染め体験(通年) 餅つき体験(通年) 谷口銀山体験(5～10月)	木のオブジェ・フォトスタン ド・リース作りなど
7. グリーンバレー・ カムロ	8. 趣味の家・藤兵衛	9. クリタ園芸	10. いわなや	11. 金山釣りクラブ	
かむろの里・陶芸教室(要 予約11～3月) 炭焼き体験(5月～10月) 日曜大工教室(4月～11 月) ふれあいの森自由散策(5 月～10月随時)	パッチワーク(4～12月) リースづくり(4月～12月) 蔓細工/籐工芸(4月～1 2月)	寄せ植え(通年) ハンキングバスケット(通 年)	くんせい(5～10月)	溪流釣り(3～9月) 本格的に溪流釣りをする (4～5月)	

『遊学の森』体験プログラム

- 第1回 残雪トレッキング(終了しました)
- 第2回 神室山に登ろう(終了しました)
- 第3回 木の実の森づくり... / 記念の森をつくろう(終了しました)
- 第4回 峠の伝説とブナシャワーハイキング(終了しました)
- 第5回 アスレチックフィールドをつくろう(参加者募集)
- 第6回 森の中で色を探そう(参加者募集)
- 第7回 木の実のクッキーづくり(参加者募集)
- 第8回 木の実の森づくり... (参加者募集)

- 第9回 落ち葉焚きで焼き芋焼き栗を楽しもう(参加者募集)
- 第10回 晩秋の森を満喫・ウォーキングを楽しもう(参加者募集)
- 第11回 お正月・クリスマスのリースとキャンドルづくり(参加者募集)
- 第12回 和かんじき・しめ縄づくり(参加者募集)
- 第13回 新春にもちつき・雪遊びを楽しもう(参加者募集)
- 第14回 スノーモービルで冬の森に飛び出そう(参加者募集)
- 第15回 和かんじきでトレッキングを楽しもう(参加者募集)
- 第16回 ホワイトキャンプを楽しもう(参加者募集)
- 第17回 WINTERハイキングを楽しもう(参加者募集)
- 第18回 きのこの森づくり... (参加者募集)

2. 交流と連携に係る方策〔§3 地域活動の連携(山形県金山町)〕

自然と遊びの達人「金山28人衆」を活用した40以上の山里自然体験メニューによるグリーン・ツーリズムの推進

1. 取組の概要

地域の発展には地域間の交流、特に都市との交流人口の増大が重要であるため、交流体験メニューの充実や新メニューの開発を行うとともに情報発信を実施。

- (1)平成9年11月に町、商工会、農協、観光協会、実践活動団体などを主体とした「金山町総合交流促進協議会」を設立し、各種団体の連絡調整・情報収集や取り組みを支援。
- (2)「四季の学校・谷口がっこそば」等、町単独により、実践者間の連携や活動を支援。
- (3)四季を通じて体験できる「グリーンバレー神室」・宿泊施設「シェーネスハイム金山」や遊学の森「木もれび館」を拠点としたグリーン・ツーリズムを推進。

2. 成果

(1) 成果の概要

- ・体験利用者数は、平成12年度4,200人から平成15年度約4,600人に拡大し、グリーン・ツーリズムによる地域づくりが進展。
- ・シェーネスハイム金山の宿泊者数は平成12年度10,800人から平成15年度11,300人となっており、リピーターが増えている。

(2) 成功要因

- ・金山の良さを体験指導者(町民)自身が実感し、それを交流者に触れてもらう、共有してもらうというスタイルを重視。
- ・町の情報誌「森の便り」を発行し、希望者を「杉のまち金山応援団」として登録し、随時情報発信を実施。
- ・金山町総合交流促進協議会による体験メニューを随時発掘。
(平成11年度11団体32メニュー 平成15年度13団体41メニュー)

2. 交流と連携に係る方策〔§ 4まちづくり(山形県金山町)〕

金山の町づくり

金山町の町づくりの特徴

- 1) 一度も町村合併を経験していないのでまとまりが良い
- 2) 町政が安定し、町役場(特に首長)の指導力が良い方向へ発揮されている
- 3) 全国に先駆けて実施した

町政の情報公開制度(1982年金山町公文書公開条例)

街並み(景観)づくり百年運動(1986年・金山町街並み景観条例)

などが全国的にも高く評価されている。

・街並み景観づくり運動では、条例の中に「街並み形成基準」を設け、金山型住宅(屋根の形と色、外壁の材料と色などを統一した風土にあった伝統工法)で、百年かけて風格ある家並みをつくろうという町民参加型の町づくり運動。

・これまで十六年間に、六百軒の統一された金山型住宅が新改築されている。

町内を流れる農業用水路、大堰やめがね堰は雑割石組みの親水空間として整備

・春から秋にかけて錦鯉が放流され、町民の憩いの場となっている。

このような街並み景観づくり運動に対して

平成三年には農林水産省「美しいむらづくりコンクール最優秀賞」

平成七年には建設省「都市景観大賞」が授与され、全国から多数の視察者が訪ずれている。

人づくりが町づくりの基盤

金山町では、東北大学や山形大学を提携して、町民大学講座を続けるなど、生涯学習運動を町づくりの基本に掲げてきた。

人づくりは速効性はないが、やがて最大の財産となり大きな力を発揮する。

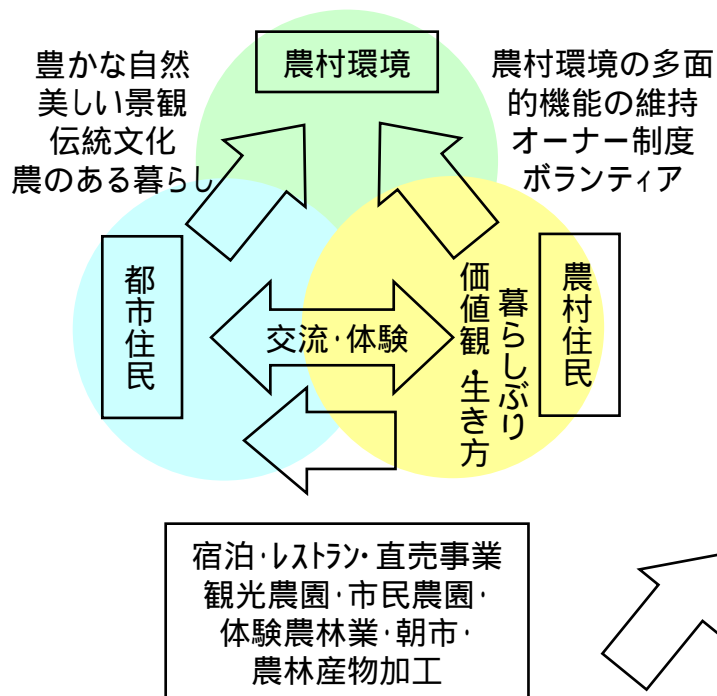
都市住民との体験型観光のグリーンツーリズムに関していえば、「暮らし考房」の栗田和則・キエ子さん夫妻のような「金山二十八人衆」が、町民の中から主体的に立ちあがって活動しています。

2. 交流と連携に係る方策〔§4まちづくり(山形県金山町)〕

名称	最上学(最上の産業と文化)
実施団体	山形県立金山高等学校、金山町立金山中学校 (連携型中高一貫教育校)
連絡先 担当者	〒999-5402 山形県最上郡金山町金山248-2 山形県立金山高等学校 連携教育課長 矢口 亨 TEL 0233-52-2887 FAX 0233-52-3575
(目的)	<p>1, 地域の産業、文化、歴史、自然に関する課題を追求することにより、郷土を愛する心や地域住民としての自覚、地域に貢献しようとする態度を育てる。</p> <p>2, 課題を見つけ、調べ、表現する課程を通して、「生きる力」の育成を図る。</p> <p>3, 高校においては中学校での「郷土」学習をまとめ、自ら取り組む課題を見つけ、「卒業研究」として取り組み、表現能力を高めながら、進路選択・自己実現を図る。</p>
(事業の概要)	<p>金山中学校と金山高等学校は平成13年度より連携型中高一貫教育を実施している。その連携学習として「総合的な学習の時間」で中学1年から高校3年までの6年間にわたって郷土学習から進路学習へと積み上げる。</p> <p>中学1年は自分が住む金山町を学ぶ「金山編」、2年では少し視野を広げた「最上編」、3年では県全体に目を広げた「山形編」を学ぶ。</p> <p>高校では1年次の前期に「最上学」(総集編)で中学での地域学習をまとめ、自らの関心に基づく課題を見つけ、後期からの「卒業研究」の中で主体的な課題学習に入る。高校2年で「卒業研究」、3年で「卒業研究」と研究を深化させながら、情報活用能力と発表力を高めながら、自らの進路実現に向けて学習する。</p> <p>高校では「総合的な学習の時間」を1年次2単位、2年次4単位、3年次4単位の合計10単位を設定している。その中で、「最上学」「卒業研究」の他に地域の社会人講師を活用する学社融合型の「金山タイム」を2,3年オープンの選択学習として、2年2単位、3年2単位実施する。この社会人講師の活用は、中学校においても「総合的な学習の時間」の中で創作活動を中心に実施する。</p> <p>金山町の「総合的な学習の時間」は中・高の6年間の地域学習を通して自らの進路を考え、地域社会と深く関わりながら、進路選択、自己実現を達成するという生徒の主体的な学習プログラムである。</p>

2. 交流と連携に係る方策〔§5地域づくりと経営(京都府美山町)〕

美山町におけるグリーンツーリズム



都市農村交流産業による地域経営

(1) 地域経営のパターン

- 住民共同営
- 農家グループ営
- 第三セクター営
- 農家の個人営
- 町営

地域経営体

(2) 美山町における事例

- 北集落(伝統的建造物群保存地区)
- 自治組織 北村茅葺きの里保存会
- 北村きび工房、民俗資料館、お食事処きたむら、
- 民宿まべた
- 大野地域
- ふるさと振興会(大野ダム湖や伝統文化等の地域の資源の保存・学習・活用)
- (有)ダムパーク大野(都市農村交流事業):住民共同営
- (有)大野屋(購買・農地保全・高齢者福祉):住民共同営
- (3) 第三セクター営(美山町条例の制定により設営～)
- (株)美山ふるさと
- (株)美山名水

都市と地域との交流

- ビジター型
- 広く浅く回るタイプ
- リピーター型
- 特定の地域にこだわりをもち年に数回も訪れるタイプ
- サポーター型
- 特定の地域の応援団となるタイプ

都市農村交流産業の展開

- 宿泊
- 食堂・直売
- 町内特産品を対象とする朝市・直売・産直・
- アンテナショップ
- 加工・販売
- 町内産農産物と水を原料に加工・販売
- 不動産
- 都市からの移住者に土地・住宅を販売・仲介

地域への波及

- 交流産業の振興
- 地産地消による活性化
- 郷土食や農林産物加工の再評価
- 地域づくり

2. 交流と連携に係る方策〔 § 6 地域づくりの推進(岐阜県) 〕

農山漁村でゆとりある休暇を

新しいライフスタイルの実現

受け入れ側として本物であるために

民宿経営の創意工夫

自分たちも楽しくなければ

郷土色豊かなイベントの充実

体験型旅行への対応

ビジネスとしての可能性

グリーン・ツーリズム成功のポイント

グリーン・ツーリズムの推進・定着に向けて

75%は知らない～都市の交流人口をどう増やすか～

仕掛け人の育成

農村漁村地域に暮らす喜び

地域間の温度差

今、求められる対応

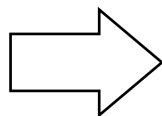
世代別ニーズの把握

行政支援からの自立

タイムリーな情報提供

地域間交流のあり方

都市と農村の“共生対流”



美しいむらづくりの推進

- ・快適な「居住空間」「余暇空間」の形成
- ・農村地域の生活環境の整備
- ・地域の景観保全等を図る仕組みづくり
- ・景観コンテスト、伝統文化顕彰制度
- ・農地・農園、谷津田の環境整備
- ・廃校や古民家を利用した交流施設の整備

受け入れ体制の整備

- ・ホスピタリティの向上等ソフト面の整備
- ・体験インストラクターや受け入れ側の中核となる人材の育成
エスケーター〔地域を案内できる〕
インストラクター〔探検、カヌー、農作業体験〕
コーディネーター〔企画・調整〕
- ・人材バンクへの登録・活用
- ・宿泊施設、農家レストラン、体験・交流施設の整備
- ・宿泊施設の登録等の仕組みの検討

都市・農村相互情報システムの構築

- ・インターネットやガイドブック、映像等により情報発信
- ・IT活用の人材育成
- ・農村側情報の収集・評価・紹介システム
- ・都市側ニーズの伝達システムや需給マッチングのためのシステム等の構築
- ・ライフステージ毎のニーズに配慮したモデルの提案
- ・青少年、熟年層等への農業・農村体験の推進

推進・支援体制の整備

- ・官民連携によるキャンペーン活動の展開
- ・企業、消費者等都市側と農村側との交流促進体制の整備
- ・推進指導體制の整備
- ・情報発信拠点(機能)の整備
- ・官民の協力・分担関係の検討
(地域、行政、観光協会などの役割分担)

2. 交流と連携に係る方策〔§7 支援策や補助事業(農林水産省)〕

1. グリーン・ツーリズム総合戦略推進

(1) 新たなグリーン・ツーリズムの推進体制の整備

新たなグリーン・ツーリズム及び観光立村の取組みを推進するため、農林漁業関係者、農林漁業体験民宿経営者、観光産業関係者、学校教育関係者等からなる推進体制を整備し、都道府県における普及方策を検討。

(2) 新たなグリーン・ツーリズムの普及・推進活動

グリーン・ツーリズムの新たなスタイルを普及・推進するためのイベント等の開催や市町村に対する指導・連絡調整等

(3) 観光立村の推進

農山漁村における伝統文化など外国人向け観光資源の発掘やモデル的な旅行コースの育成を討論するシンポジウム等の開催。

2. グリーン・ツーリズムセンター機能確立

(1) 全国子ども農林漁業体験受入地域情報や茅葺き農家等多彩なデータベースの整備

(2) 関係機関が所有する各種農山漁村情報の総合検索システム等による都市部等での情報提供の充実強化

(3) 都市部の教育関係者、NPO、関係産業等と農山漁村部の受入側との相談会の実施、相談窓口の整備等のマッチング活動の推進。また、都市部と農山漁村部がインターネットを通じてマッチングするための情報サイトの整備

(4) 外国人旅行者等の我が国農山漁村への旅行ニーズの分析、パンフレットやガイドブックの作成、外国人旅行者等に対する日本のグリーン・ツーリズム情報の提供

(5) 外国人旅行者等を対象とした「日本の田舎ライフPRイベント」の開催

3. グリーン・ツーリズムビジネス育成

(1) グリーン・ツーリズムビジネスの企業化及び人材育成

[1] グリーン・ツーリズムビジネスの育成

農林漁業体験民宿業や農林漁業体験施設における交流・体験サービスのニーズに即した多様な展開と魅力向上を図るための調査検討を行うとともに、農林漁業体験民宿業等の関係者を支援するための「開業スクール」を開催

また、農林漁業体験宿泊施設等の整備(規模、整備水準等)に関する調査を実施

[2] グリーン・ツーリズムコーディネーター等の育成

地域において各種体験活動等の企画・立案・調整を行うコーディネーター、地域ぐるみのグリーン・ツーリズムを運営するマネジャーの育成に必要な研修・セミナーの開催

(2) 都道府県による体験指導者等の育成

[1] 都道府県が行う地域を熟知する農林漁業者等を活用した「農の達人」「食の達人」等体験指導員、地域を熟知する農村ガイド等の育成、農林漁業体験民宿指導活動等への支援

[2] 外国人旅行者等に対応するため、体験指導員等を対象とした応接研修や食材の開発研修等を実施

(3) グリーン・ツーリズム人材バンクの整備

グリーン・ツーリズムスクールや都道府県で育成された人材の活用を図るため、グリーンツーリズム人材バンクを整備

2. 交流と連携に係る方策〔§7 支援策や補助事業(農林水産省)〕

4. 地域連携システム整備

(1) 地域連携システム推進体制の整備

地方自治体、NPO、農林漁業、商工業、教育等多様な関係者が参画し、農山漁村資源の再評価等を行うワークショップ活動等地域の自発的な取組を行う地域連携システム推進体制を整備

(2) ワークショップ活動を通じた地域連携システムの構築

多くの関係者に経済的・社会的効果が分配されるような地域全体の取組事業とするという観点から、以下の点について、地域ぐるみでのワークショップ活動を実施し、都市住民や外国人旅行者等を受け入れるための地域連携システムを構築

[1] グリーン・ツーリズム地域育成型

- (a) 地域資源の発掘・再評価
- (b) 地域内の農林漁業との連携・調和
- (c) 体験交流施設等の整備・連携方向
- (d) 地域内の飲食業、小売業、地場産業の連携・役割分担
- (e) 地域資源の特性を活かした交流産業の高度化
- (f) 情報発信機能の強化
- (g) 交流空間の整備

[2] 観光立村推進型

- (a) 「一地域一観光」のための地域観光プランの作成
- (b) 地域観光拠点マップ及びパンフレット等の作成
- (c) 外国語標識等の設置
- (d) 「観光大使」による地域の魅力の発信
- (e) 交流イベントの開催

(3) 都道府県推進活動

地域連携システムの整備に係る市町村活動に対する指導・連絡調整等

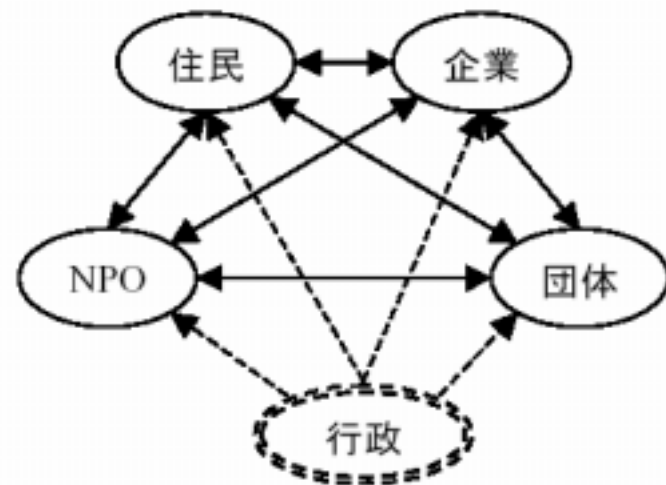
行政の役割

これまで



行政が、多様な主体の意見を聞き、各方面の調整を行い、最終的に行政が実行する。

これから



多様な主体がそれぞれ意見を出し合い、ダイレクトに相互調整を図り、自ら実行していく。行政は、必要に応じて全体あるいは個々の主体を支援していく「黒子」となる。

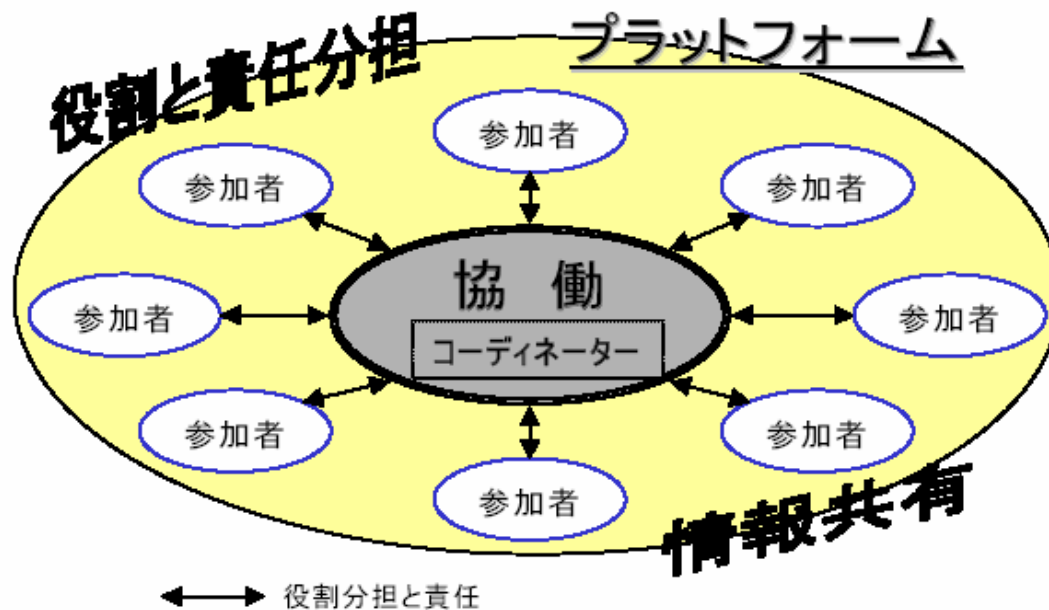
プラットフォームのイメージ図

基本 : 多様な主体が情報を交換・共有するだけにとどまらず、
戦略的に地域づくりを実行する(DO)場

場合によってはその他の機能も担う

PLAN:ビジョン・計画の策定・調整

CHECK:相互評価



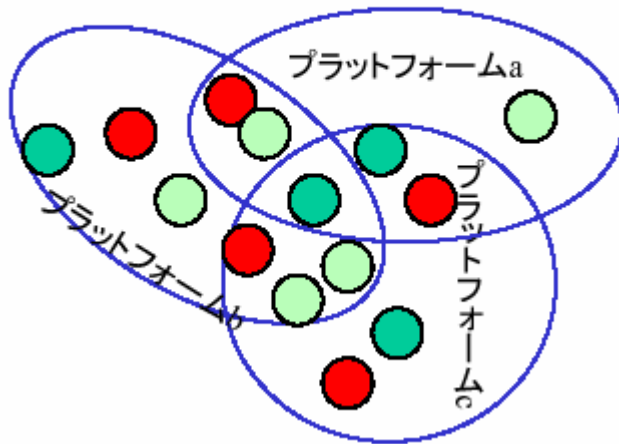
- プラットフォームでは、参加者の間で役割分担がなされ、各々が責任ある主体として行動する
- 事務局は行政とは限らず、その担い手は参加者の間で合意される

2. 交流と連携に係る方策〔 § 8 交流と連携のあり方の検討 (国土交通省) 〕

<階層型>

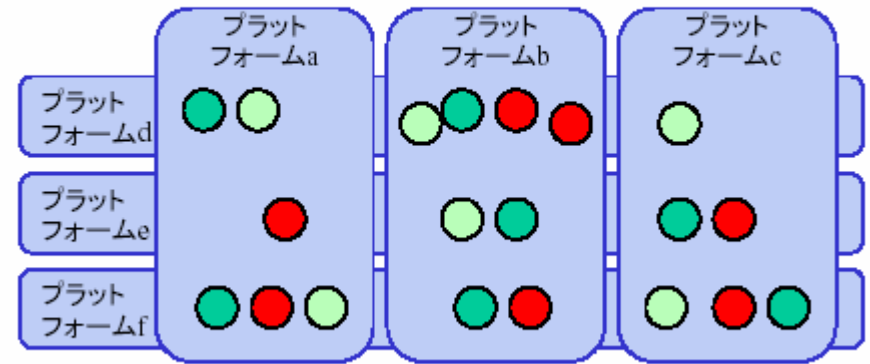


<複合型>



組織を構成する人々の役割	発案者(提案する人)
	同調者(賛同し進める人)
	リーダー(牽引車)
	仕掛け人(調整者)
	推進者(汗をかく人)
	後援者(側面からの支援者)
	仲立ち人(外部と情報交換する人)

<マトリクス型>



類型	メリット	デメリット
階層型 (地域の積み上げ型)	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとの特徴が出せる 地域に自治組織が既存するのでプラットフォームを構成しやすいなど 	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームが扱うテーマによって、参加者の間に関心度合いに温度差ができやすく、それが参加者の増減に響いてきてしまう 地域を超えたテーマを受け入れ難いなど
マトリクス型 (地域とテーマのマトリクス)	<ul style="list-style-type: none"> テーマ志向でありながらも地域開放性を有すること 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のくくり方によって住民間のまとまりを生まなくなる可能性のあること 地域によっては参加者が少なすぎるといった偏りが生じる
複合型 (多種多様なプラットフォーム)	<ul style="list-style-type: none"> 機動性や柔軟性を持ち、地域のあるいは地域を超えた様々な課題に対応していく 	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム間の整合性をとったり、共通の関心や価値の共有といった求心力を確保していくことが難しい